きんもくせい

令和5年　学校教育だより
May 5 第357号
（年４回発行）
編集・きんもくせい編集委員会
発行・埼玉県富士見市教育委員会
電話・049-251-2711（内線622）

編集目標　人間尊重の教育を求めて

諏訪小全員が明るいあいさつで今日をスタート　写真提供／諏訪小学校

新しい自分

みずほ台小学校　五年
中阿地　葵

この一年間見つけたよ
新しい自分

楽しい　かなしい
うれしい

いろいろあったけど
見つけた自分　新しい自分

また見つけたいな
新しい自分
またくるといいな
新しい自分

活動の時間における指導の充実を目指して～

富士見特別支援学校　令和2～4年度　研究部長　**對馬　志津**

「子どもの力を伸ばすために、教員が力を合わせる」

本市に特別支援学校があることはご存じかと思います。さいたま市以外では、唯一小・中・高等部を備えた市立の特別支援学校です。一方で、特別支援学校に通う子どもたちがどんな学習をしているかご存じの方は少ないのではないでしょうか。ここでは、その学習の一端について紹介します。

本校では、もちろん、通常の学校の子どもたちと同様に、各教科の学習も行っています。それに加えて、特別支援教育の根幹ともいえる「自立活動」という学習を行っています。「自立活動」の授業には、教科書はありません。個に応じた内容を考え、子ども一人一人のもっている力を伸ばすことを目指しています。効果的に学習を展開していくためには、教員の指導力が必要になります。本校は三年間、この「自立活動」の指導について研究に取り組んできました。

「自立活動」とは

「自立活動」とは、特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室の教育課程において特別に設けられた指導領域です。障害のある子どもが、社会参画をするために必要な力を培うための大切な学習です。学習内容は、子どもによって違います。在籍している子どもたちが、一人一人違う特性や個性をもっているからです。ある子どもは、集中力を高めるプログラムを行います。また、ある子どもは、指先の巧緻性を高めるプログラムを行います。

このように子どものもっている能力や可能性、よさや得意なことを最大限に伸ばしたり、引き出したりするために必要なプログラムに取り組んでいくことが「自立活動」の学習内容です。同じ課題に取り組むこともありますが、子どもの性格や発達の段階により、興味関心の引き方も変わります。一人一人の実態を正確につかみ、個に応じたきめ細かな指導の仕方を考えていくことが重要になります。

特別支援学校では、各教科等の授業と同じように、時間割の中にこのような「自立活動」という時間を設定しています。個々の実態に応じるという視点は、他の学習の時間や学校生活全般においても大切にしています。

「自立活動」での教員の役割

「自立活動」の授業の基本は、個別の指導です。必ずしもマンツーマンで実施するというわけではありませんが、集団での学習場面であっても、目的や手段は一人一人違ってきます。

教科書がないからこそ実態把握や指導内容を、担当する教員が一人で組み立て、評価についても一人で行うことになります。このような指導も踏まえ、特別支援学校では、複数担任制をとっています。そこで、他校よりも教員数が多い利点を生かし、教員同士の話し合いの時間を大切にし、互いに指導の共通点や相違点について積極的に意見交換をしながら、よりよい学習内容や指導方法を考えています。そして、計画を立て、実行し、効果を検証するＰＤＣＡサイクルを意識して「自立活動」について研究を積み重ねてきました。

「ＲＰＤＣＡサイクル」

研究を重ねる中で、改めて子どもの実態を正確につかむことの重要性を感じました。そこで、これまでのＰＤＣＡの考え方を深化させ、子どもたちの実態把握（Ｒ：リサーチ）、それに基づいた目標を設定（Ｐ：プラン）、実際の指導（Ｄ：ドゥ）、学習の達成状況から指導内容・学習内

子どもの四季

水谷小学校　６年
（現本郷中学校１年）
福田　絆恭

みんなで協力してよいクラブに

私は青空運動クラブ長を務めています。4年生から6年生まで学年関係なく、楽しく活動できるクラブを目指し、支えてきました。

一番頑張ったことは、下級生にクラブ活動の方法を伝えることです。なるべく異なる学年と関わり、協力できるようにたくさんの活動をしました。

今は、みんなで協力し、よいクラブをつくることができています。

私は、4、5年生にクラブを引きつぎ来年度に活かしてほしいと思っています。

わかる授業

子どもの力を伸ばす自立～RPDCAサイクル

容の検証（C:チェック）、改善を図り次の活動を計画実施（A:アクション）、つまり、RPDCAサイクルに取り組むことにしました。

子どもたち一人一人に応じて、RPDCAの各事項を記入したシートを作成し、それを持ち寄って、互いの内容の効果について協議するようにしました。その中で、特にR、P、Cが重要であることが見えてきました。

毎年作成している個別の指導計画との整合性を図りながら、「自立活動」を指導する上での情報を集約させることで、協議の視点が定まっていきました。教員間で月に1回程度、協議の時間を設定し、子どもたちが学習内容をクリアできたと判断できるか、次のステップとしてどのような内容に取り組むべきかについても検証し合い、研究を深めていきました。

「RPDCAサイクル」の活用事例

高等部の事例を紹介します。二人の生徒の「自立活動」において、前半では心身をリラックスする活動に取り組み、後半では生徒それぞれの課題に応じた活動に取り組みました。

RPDCAサイクルシートを使っての協議を重ねながら授業改善を行い、授業の内容を「ヨガ」「個別課題」「友達との協力課題」をパターンとして設定し直しました。「個別課題」では同時処理から継時処理に移行する課題を入れたり、一人で取り組む「自立課題」を入れて教員との距離を少しずつ離し、報告や相談の場面をつくったりしました。「友達との協力課題」では、協力することで成果が得られるゴールの分かりやすい題材に取り組みました。

C(チェック)の際、他者と関わる力の伸びが感じられたため、段階的に難易度を上げることにしました。楽しみながら取り組むことができ、日常生活の場面でも安定して他者と関わる姿が見られるようになり、友達を意識することができるようになってきました。

「まとめ」

一人の教員、またはクラスの担任だけで「自立活動」を行うのではなく、他クラスの教員とRPDCAサイクルに基づき活発に議論を交わすことで、客観的な意見を得られ、効果的な指導につながるのだという気付きがありました。

授業をよりよく、継続的に取り組む工夫をすることで、子どもたち一人一人の力を伸ばす「自立活動」の指導につながっていると考えます。

子どもたちが、どんなことに困っているのか、どんなことができるようになりたいのか、それを支える力を培っていくためには、どんな内容に取り組んで、積み重ねていくのがよいのか、教員一人一人の力を合わせて、これからも子どもたちの「自立」につながる指導に取り組んでいきたいです。

指導・講評

富士見特別支援学校長　齊藤　七実

特別支援教育において、学びのRPDCAサイクルは必要不可欠です。特にR(リサーチ)は、なりたい自分、目指したい大人像、本人や保護者、家族、教職員の思いや願いだけでなく、可能性や伸びしろなどたくさんの要素が含まれています。三年間にわたり進めてきた本校の研究から、子どもたち一人一人の実態把握と行動観察力の向上、全教員が子どもの能力を見極め、「自立活動」における教材作成や授業力向上等、多くの成果を得ることができました。

特別支援教育

『六人で楽しい日々を』

南畑小学校　教諭　小山安明

「出会い」とは、一つの奇跡だと思っています。

五か月前カタールでサッカーの森保ジャパンが大活躍をしました。三苫選手や堂安選手、遠藤選手をはじめとしたあのメンバーであの大会を迎えていなければ、あの輝かしい戦歴はなかったはずです。

規模は違いますが、このつばさ学級も同様だと考えています。このメンバーでなければ、なすことのできない何かがあるはず。このメンバーでなければ、得られない何かがあるはず。

児童四人に教員二人を加えた六人。この「出会い」には何か意味があるはずと捉え、この「出会い」の意味を探す、見出す一年間にしていきたいと考えています。

日々の教育活動では、児童一人一人の得意なことを伸ばし、自己肯定感をはぐくんでいきたいと考えています。そしてその力で児童自身が苦手なところを補完できればと思っています。

勿論、苦手なところはスモールステップで少しずつ確実に力をつけさせることを肝に銘じ、六人で楽しい日々を送っていきたいと考えています。

はぐくむ
～学校・家庭・地域から～

頑張る子どもたちに「ありがとう！」

勝瀬中学校　保護者　近藤　泰弘

「早く起きなさい！六時半だよ。」「は～い」妻が保育園に通う一番下の娘を起こす。眠い目をこすりながら朝の支度をする。夫婦ともフルタイムで働くため、我が家の子どもたちの朝は早い。小六の娘と中三の息子も自分たちで朝食を食べ、鍵をかけて出ていく。親が「行ってらっしゃい」という言葉はかけられない。帰りは夜七時近くに。保育園のお迎えを終えて帰えると、夕食は八時半を過ぎることも・・・。

我が家では当たり前の忙しい光景も、考えてみれば当たり前ではない。私が幼い頃は、母が専業主婦で毎日家にいた。「今日の夕飯何？」と聞くのが口癖だった。学校で嫌なことがあっても、母が家にいたので、それだけで気持ちが楽になった。

それに比べて、朝早く帰りが遅い両親をもつ我が家の子どもたちは何を思うのか。とにかく親としては感謝しかない。でも、だからと言ってそれに甘えてばかりもいられない。

休みの日は積極的に習い事の送り迎えや部活動のお手伝いをする。もちろん旅行などにも積極的に連れていく。勉強も必要であれば協力する。すべて日頃頑張ってくれている子どもたちのために力になればとの思い。「お父さんとお母さんが安心して働けているのは君たちのお陰。本当にありがとう！」我が家は頑張る三人の子どもたちに支えられている。

生き抜く力を身に付け、自ら輝く生徒の育成

富士見台中学校

タイトルにある言葉は、富士見台中学校の学校教育目標です。生徒が多様な経験を通じて、自己肯定感や自己有用感を高め、仲間とよりよい関係を築き、主体的に社会の変化に対応する態度をはぐくむことにより、生徒が将来を見据え、自らの生き方を開拓していく「生き抜く力」が身に付くと考えています。生徒が「自立できるための力」「自律する力」をはぐくむため、様々な教育活動を展開しています。

先生から生徒が学ぶことはもちろん、生徒同士、とりわけ先輩から学ぶ機会が中学生には多くあります。部活動や委員会活動だけではなく、縦割りの活動を生かして、後輩が先輩から学び、先輩を手本とすることや、上級生は先輩としての自覚をもつことを大切にしています。

写真の「生徒会オリエンテーション」では、先輩から一年生に生徒会活動や委員会活動の特徴について紹介をしました。今後も行事や縦割りの活動を生かして「生き抜く力」をはぐくんでまいります。

日常を生きる力へ

針ケ谷小学校　保護者　岩井　彰子

私には二人の娘がいます。

出産した頃は慣れない土地で頼れる人もおらず、片時も離れない甘えん坊たちと毎日必死でした。当時は育休中のため、時間に限りがあるからこそたくさんの愛情を注ぎ大切な時間にしたいと思って過ごしていました。

仕事復帰後も、いろいろな問題に向き合う日々。慣れない保育園、二女の夜泣き、登園したくないと申し訳なさそうに泣く長女の姿に、自分には二人を守ることができているのか。仕事を続けながら子育ては無理なのか。悩んだり弱気になったりすることもありました。

それでも容赦なく生活が続く中で、「悩んで出した自分の答えは全て正解！」と思うことに決め、子どもたちを励まし、つらいことも笑いに変え

て一緒に乗り越えてきました。

やがて二人が成長するにつれ、注ぎたいと思っていた私の愛情は、いつしか子どもたちから私へ注がれていました。どんな私でも全て受け入れて笑顔を向けてくれる子どもたち。その優しさに応えたいと思う自分。一生懸命育てていたつもりが、私の方が育ててもらっていることに気付かされました。

今では、次女も入学し二人で嬉しそうに登校しています。先生やお友達との関わりも広がり、いろいろなことに全力で挑戦するたくましい子に育ってくれました。学校という場や周囲の方々に育てていただいていると感じています。

これからも、子どもたちとの限りある日々を大切に過ごしていきたいと思います。

教育課題特集 生きる力を

真剣勝負がはぐくむ生きる力

鶴瀬小学校

本校では、各学年で優勝カップをかけて、学級対抗の様々な大会を実施しています。令和四年度は、学習したことのまとめとして、長縄、ポートボール、ハンドボール、バスケットボール、九九かるた等の大会を学年ごとに考え行いました。

大会を通して、子どもたちは、勝利に向かって真剣に競技に向き合い、切磋琢磨しました。どうしたら勝てるのかを考える中で、友だちとのつながりを広げたり、深めたりすることができました。そして何より、相手がいてこそ勝負ができることの素晴らしさを感じ、お互いをたたえ合うことができました。

この取組は、子どもたちに、たくさんの力を生み出しています。それは、紛れもなく、子どもたちが自分たちのために考え行動する力です。自分たちで考えるからこそ、取り組んだことに誇りをもち、お互いをたたえ合うことができるのだと思います。

「直接向き合う時間の大切さ」

スクールサポートスタッフ　横田　藍子

四年前から中学校でスクールサポートスタッフの仕事をし始めた私は、学校現場を見て「今の子どもたちはなんて忙しいんだろう。」と感じました。私が子どもの頃より学ぶことも多く、学び方も変わっています。「ちゃんとした中学校生活を送るためには今からいろいろ習慣付けておかなければならない。」と思い、小学生だった子どもたちへのしつけに力が入っていきました。時々子どもが学校に行きたくないと言うことがあったのは仕事を始めてしばらくしてから…、コロナが流行する直前のことでした。このまま休みたいと言うことが続いたらどうしようと思っていましたが、そのまま臨時休業期間に入ったので一緒にたくさんの時間を過ごすことができ、学校が再開してからも子どもとの時間を多く、そして丁寧にとるように努めたところ、卒業まで元気に学校に通ってくれました。変化のスピードが速く、オンラインやネットが主流の時代ではありますが、ゆったり過ごす時間、直接のコミュニケーションもまだまだ必要なのだと感じました。

子どもが学校を休みがちだった時は、学校の先生にも大変お世話になりました。お忙しい中何度も電話をくださったり家まで様子を見に来てくださったり…。私は今、スクールサポートスタッフとして市内の中学校に勤務しています。かつて我が子にしていただいたように、先生方が少しでも多くの生徒さんと、少しでも長い時間向き合えるようにと思い、日々仕事に取り組んでいます。

新しいクラスの仲間や先生との出会いに胸を膨らませながら、子どもたちは入学・進級しました。新型コロナウイルス感染症に伴う制限が徐々に緩和されることもあり、以前の日常が戻りつつあります。

この学校TODAYでは、各学校の特色のある取組を、紹介していきます。子どもたちは、授業や行事などの活動を通して、仲間とともに学ぶことの楽しさを感じています。その生き生きとした姿をお伝えしていきます。

子どもたちの成長のために、各校の教職員一同、全力で教育活動を展開してまいりますので一年間よろしくお願いします。

富士見台中

新たな1年のスタート!

昇降口等に掲示された学級名簿を見た生徒からは様々な歓声が聞こえ、新たな1年がスタートしました。

南畑小

歴史と伝統ある南畑小～開校150周年～

本校は令和5年に開校150周年を迎えます。「未来へつなぐ南畑の輪」をスローガンとして、1年間様々な行事を計画しています。

つるせ台小

STEM教育で社会の問題解決をしたよ!!

車会社の研究員になりきり「山道でも安全に走れる車」という要望に応え、センサー付のLEGOを使って開発に取り組みました。

水谷中

在校生全員で卒業を祝った「三送会」

装飾・ダンス・映像・スライド……それぞれの係に精一杯の工夫が凝らされており、3年生に楽しんでもらいました。

みんなで育てる　本で育てる

富士見市立中央図書館　長谷川　実

二〇二〇年から、中央図書館の館長をしていますが、ちょうど新型コロナウイルス感染症が流行し始め、休館であったり、滞在時間の制限であったり、小学校の図書館見学においても、少人数に分けての対応となっていました。中学校の職場体験も中止となり、皆さんと接する機会が少なくなり、とても寂しい三年間でした。

このような状況の中でも、小学校の新一年生には、図書館利用カードの発行と本のプレゼントを実施してきました。図書館利用カードの発行については、私が鶴瀬西分館にいた約十年前からつるせ台小学校に始まり、その三年後から鶴瀬小学校でも行い、市内に広めてきました。子どもたちが、図書館利用や読書に親しんでもらう機会をつくってきました。

図書館は、家庭・学校・地域をつなぐ役割を果たさなければならないと考えていますし、図書館自身が時には家庭・学校・地域として子どもたちと接していかなければならないと考えています。ある時は親として、図書館のルールを教えたり、ある時は先生として、図書館の使い方や本の並び方を教えたり、また、子どもたちの安全を見守る地域

学校

富士見特別支援

「南畑ふるさとまつりで作業販売」

木工の椅子や iPad スタンド、さをり織り製品、陶器など、作業学習の製品を販売しました。地域の方々に大好評でした!

本郷中

創る伝統、繋ぐ想い

3月10日に行われた三送会。思い出をつづった、後輩達による劇の締めくくりには「先輩たちがつくった伝統を受け継ぎ、学校を支えていきます」と頼もしいメッセージ。想いは繋がりました。

鶴瀬小

学校の垣根を超えた元気な挨拶運動!

本校代表委員会と富士見台中学校の生徒会が連携して挨拶運動を行いました。中学生に負けじと、元気な挨拶ができました。

水谷小

総合的な学習の時間(水谷博士タイム)

3～6年生が 9 つのプロジェクトの中から、興味・関心の高いものを選択し、縦割りで探求心・協働的な学びを行っています。

ふじみ野小

未来をつくるのは、私たち小さな博士だ

STEM 教育の授業で、皆で50年後の富士見市を創造し、大きな絵を描きました。その上を自作した未来の車を走らせました。

の方のような時もあります。図書館は、子どもたちが初めて自主的に一人でも使うことのできる公共施設です。

一人前として図書館が利用できる反面、その分図書館のルールはしっかり守ってもらいたいと思います。私は、子どもたちが自分で予約した資料を一人で借りに来た時の、ちょっと誇らしげな、そしてちょっと大人になったような感じがとても大好きです。

今回のタイトルに付けた「みんなで育てる　本で育てる」は、今年度から始まった「富士見市子ども読書活動推進計画」のサブタイトルです。図書館をはじめ、親御さん・先生・地域の方・ボランティアの方等、子どもたちに関わる全ての大人（みんな）で育てる、本を通じてそれを実現していくという意味を込めました。様々な本を読むことで、子どもたちの知の栄養となるよう、これからもみんなで協力・連携して、子どもたちのために図書館が中心となって読書活動を進めていきたいと考えています。

子どもたちが初めて言葉を覚えるのは、親御さんの言葉です。親御さんが読み聞かせ等をすることが、子どもたちの読書への関心にどれだけ大事なのかこれからも皆さんに伝えていきたいです。

教育委員会だより

教育行政方針全文については、市HP、各図書館等でご覧になれます。

≪令和５年度教育行政方針≫

＜令和５年度教育行政方針に基づく主な取組み＞

- ◆ 実用英語技能検定受験料の補助対象を中学校１・２年生にも拡大
- ◆ 市内全小学校におけるＳＴＥＭ教育の実施
- ◆ 富士見特別支援学校に配置する看護師の増員による支援体制の拡充
- ◆ 大学と連携した教育相談や小学校へのスチューデントサポーターの派遣による相談体制の強化
- ◆ オンライン学習に係る通信費用の一部助成
- ◆ 小・中・特別支援学校６校体育館への空調設備の設置

☆運動会（体育祭）♪音楽会（合唱祭）等の日程

学校名	運動会･体育祭	予備日	音楽会（合唱コン）等
鶴瀬小学校	5月27日	5月28日	11月18日(周年式典)
水谷小学校	5月27日	5月31日	10月28日
南畑小学校	5月27日	5月28日	11月10日
関沢小学校	5月27日	5月31日	11月11日
勝瀬小学校	10月28日	10月30日	6月17日
水谷東小学校	11月11日	11月12日	9月30日
諏訪小学校	5月27日	5月28日	10月28日
みずほ台小学校	10月14日	10月15日	11月11日
針ケ谷小学校	5月27日	5月30日	11月11日
ふじみ野小学校	5月27日	5月28日	10月28日
つるせ台小学校	10月14日	10月17日	6月10日
富士見台中学校	5月20日	5月23日	10月24日
本郷中学校	5月20日	5月23日	11月1日
東中学校	5月20日	5月22日	10月26日
西中学校	5月20日	5月23日	11月2日
勝瀬中学校	5月20日	5月23日	11月1日
水谷中学校	5月20日	5月22日	10月25日
富士見特別支援学校	5月19日(中･高) 5月26日(小)	中･高5/25 小5/31	中学部：11月8日 小学部：11月10日 高等部：11月17日 ※ふじみっこ祭り

令和5年度の学校教育だより「きんもくせい」の編集委員の先生方をお知らせします。今年度も富士見市の教育理念「人間尊重」の教育を基本とし、その実現を求めて編集に携わっていただきます。

《編集委員長》　齊藤七実（富士見特別支援学校校長）
《編集副委員長》　中村恵美（つるせ台小学校教頭）
《編集委員》　井村まき（水谷小学校）
吉崎仁美（諏訪小学校）
小島早織（富士見台中学校）
照井恵（東中学校）
福井智子（西中学校）

《お詫びと訂正》
3月号（356号）の「教育委員会だより」鶴瀬小学校の入学式の開式時刻は、11:00の誤りでした。ここに訂正し、お詫びします。

クラスの横顔

きらきら

水谷東小学校　教諭　佐藤　元輝

私は、初めての市町をまたぐ異動で、昨年の四月に水谷東小学校に着任しました。

担当は、二年生。私が教室に入っていくと、「え、誰ですか。新しい先生ですか。」と、明るくきらきらとした目で私に話しかけてくる一人の男の子。それにつられて、たくさんの子どもたちが集まってきました。とても人懐っこく、元気で明るい二年生との出会いでした。

この学級の子どもたちは外遊びが大好きで、朝登校してくるとすぐにみんな校庭に出ます。休み時間には「遊ぼう！」と声をかけられ、大人気なく必死に子どもたちを追いかけたこともよい思い出です。

当初は、何をして遊ぶかで子ども同士がぶつかることや学級会の話合いで意見がまとまらないことも多かったのですが、一年を通して相手を思いやる心がはぐくまれるにともない、ゆずりあったり、困っている友達に手を差し伸べたりすることができるようになりました。最後のお楽しみ会の準備では、自分たちで決めた役割以上の仕事をみんなで行い、笑顔で一年間を終えることができました。

一クラスが二十人以下と人数の少ない学年でしたが、三年生では、いよいよ三十五人が一つのクラスになります。一年間で成長した「相手を思いやる心」を大切に中学年の仲間入りをして、今後も「きらきら」輝いていくことを願っています。

編集日記

さわやかな晴天の日の朝でした。私の勤める学校の校務員さんがにっこり笑って声をかけてくれました。

「おはようございます。校長先生は、うちの学校から富士山が見える場所があることをご存じですか。」と。昨年度の春からこの一年間、学校内をくまなく歩き、本校の穴場スポットはすべて把握していると自負していた私は、なんとその場所を知らなかったのです。「そんな場所があるなんて、知らなかったです。ぜひ教えてください。」

にやりと笑う校務員さんの後をわくわくしながらついていきました。校舎の二階に上がり、角を二か所曲がったその先に、かかし置き場があるのですが…、そこから西の方向を指さす校務員さん。

「わぁ、素敵。」思わず声が出てしまった私。校舎の先に緑の木々が左右に生い茂り、その合間から覗いているのは青空と共に顔を出す日本一の山、富士山。なんだか嬉しい気持ちになりました。『よし、ここを本校のパワースポットにしよう。』と心に決めました。富士山に見守られ、毎日いいことがたくさんありますように。

（齊藤七実）